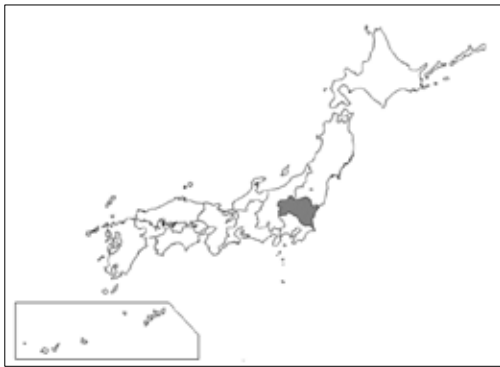


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

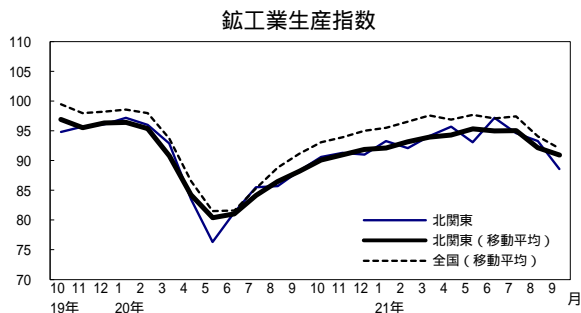
前回からの主要変更点

	前回(令和3年8月)	今回(令和3年12月)
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる
鉱工業生産	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
雇用	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が減少したこと、「電子デバ、電気・情報通信」が減少したこと等により、前期比3.3%減となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。

2. 全国及び北関東の大線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。
3. 北関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラスチック	20.1	4.1	3.3	4.8	0.7	0.6
輸送機械	18.3	3.2	10.6	4.1	2.6	30.0
汎・生産・業務用機械	17.1	7.1	2.7	1.8	2.3	0.3
食料品・たばこ	12.1	0.6		0.0	1.0	
電子デバ、電気・情報通信	11.2	2.8	6.6	3.4	4.7	1.5
鉱工業	100.0	2.3	3.3	2.7	1.4	5.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

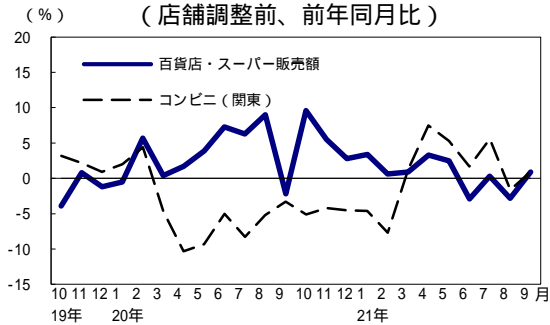
(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7 - 9月期は前期比 2.2%減となった。月別にみると、7月は前月比 2.2%減、8月は同 1.1%減、9月は同 0.2%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比 0.6%減となった。月別にみると、7月は前年同月比 0.3%増、8月は同 2.8%減、9月は同 0.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年7-9月	2021年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	2.2	2.2	1.1	0.2
百貨店・スーパー(*2)	0.6	0.3	2.8	0.9
コンビニ(*3)	1.6	5.6	1.6	0.9
乗用車(*4)	17.3	6.6	2.4	36.2
(季節調整値)(*4)	13.8	0.5	5.2	33.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

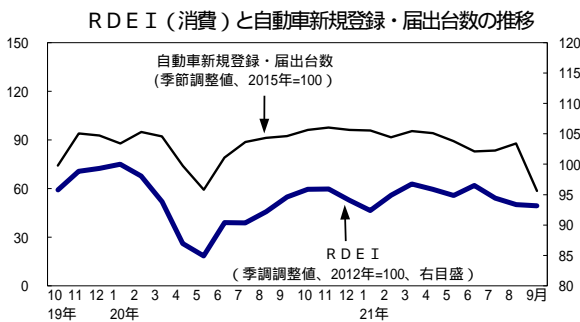
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

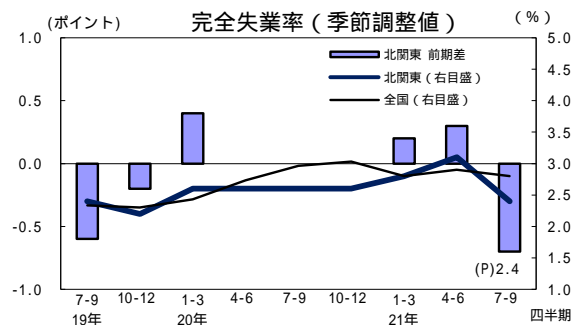
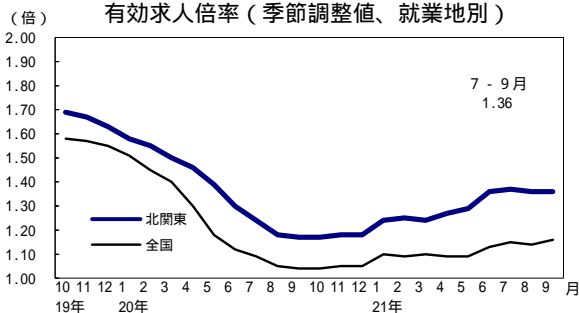


3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率(季節調整値、就業地別)



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。

2. 7 - 9月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

3. 北関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・緊急事態宣言解除後、人の動きはあるものの来客数は伸びず、客単価も変動がない。観光地の店舗では多少の来客数増加はあるが、回復までには至らない(スーパー)。
			・来客数は徐々に回復傾向にあり、緩やかなペースとなっている。ただし、回復傾向と売上はまだ連動していない(百貨店)。
			・半導体など部材不足の影響が理由とされているが、売れ筋商材の入荷が少なく、需要にこたえられていない(通信会社)。
	企業 動向 関連		・原材料価格の値上げ圧力が強く、対応に苦慮している。価格転嫁した場合、現在の受注量を維持できるか予想ができないため、現状維持の足踏み状態である(化学工業)。
		・自動車組立ラインの稼働停止の影響が、非常に大きく出ている(一般機械器具製造業)。	
雇用 関連		・新型コロナウィルスの影響も少なくなったためか、入居率が上がり、入退居の回転も上がっている。清掃や修繕等の受注量も増えており、やや良くなっている(不動産業)。	
		・求人状況は分野によって、前年より多くの求人数の分野がある一方で、逆に少ないところもある(学校[専門学校])。	
その他の特徴 コメント			・建設業や製造業を中心に、求人数が回復傾向にある(人材派遣会社)。 : 10月に入り、週末はレジャー客、平日はビジネス客の宿泊が増えている。また、当県独自の宿泊割引が再開したことにより、宿泊客が増加している(都市型ホテル)。 : 国内の自動車メーカーは、半導体不足等の影響で、約40%ダウンの生産量となっている。相変わらず、納車待ちの状況が続いているが、客からの注文はそこそこある。怖いのは、納期が4~5か月遅れで常態化することである(乗用車販売店)。
先行き	家計 動向 関連		・緊急事態宣言が解除されて、来客数が増えたことや、客単価が年末年始に向かって上昇していくと予想し、やや良くなる(コンビニ)。
			・客の購買意欲は徐々に前向きになってきている。年末年始に向けて、新型コロナウィルスの感染拡大第6波への懸念が残る(商店街)。
	企業 動向 関連		・年末年始に向かって寒さも厳しくなるので、冬物家電、暖房器具、ヒーター、エアコン等の物量が増える予定である。しかし、全体的に関東に向かう輸送便が少なく、車両確保が厳しくなりそうで、運賃高騰になり、燃料価格高騰も続きそうなので、利益自体は薄くなりそうである(輸送業)。
			・新型コロナウィルス禍が落ち着いてきて、今まで動けなかった人たちが動くようになり、少し景気が良くなる(窯業・土石製品製造業)。
雇用 関連		・新型コロナウィルスの影響による規制の緩和で、飲食関係を中心に伸びていく。年末商戦等における人材確保や販売促進でも、やや良くなる。年末は、建設、道路関係工事、住宅の一部改修等も増えていく(人材派遣会社)。	
		・新型コロナウィルスの新規感染者数の減少により、景気も改善していると思うが、「半導体の部品が海外から納入されず、先行きが不透明」との理由で、求人を控える自動車関係部品加工製造事業所等も多くある(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント			・来月以降の予約問合せも徐々に増えてきているので、期待はしている(一般レストラン[居酒屋])。 : 今後、新型コロナウィルスの感染再拡大がなければ、秋の紅葉シーズン、年末年始の旅行客が見込める(旅行代理店)。

(DI) 現状・先行き判断DI(北関東)の推移(季節調整値)

